

「まちづくり提案事業助成」助成決定事業の概要(上町台地マイルドHOPEゾーン事業)

団体名	直木三十五記念館
代表者名	小辻 昌平
事業のテーマ・タイトル	【名所】 着地型観光へ向けた記念館を核とするボランティアガイドの養成
主旨	多方面からの支援に支えられ当記念館が運営されることで、直木三十五が大阪・上町台地の出身であることは徐々に認知されてきている。一方当記念館が存する空堀地域のまち見学は多数の要望があるが、案内できる人間に限られている。そこで、平成19年度の当助成事業で重要性が明確になった「着地型」「参加型」の観光の視点に立ち、ボランティアガイドの養成を実施する。 これは、日常的な来訪者への対応とともに、今後多くの需要が予想される水都大阪2009などの大型集客イベントにも対応した「まちあるき」等に対して受け入れ可能な体制を作ることと、当記念館と空堀をセットで「新名所」にしてゆくしゅみをつくることを目的とする。同時に、従来から記念館が標榜する「市民参加型ミュージアム」を具体化し、市民の意識を啓発するものとする。
内容	1、地域資産や魅力を踏まえたガイドブックの試作版を作成する。 2、インターネット、チラシ、ポスターによりガイド希望者を募集。 3、大阪芸術大学教授谷口靖弘氏(予定)を招き、ガイド講座を開催。 4、机上ワーキング・路上ワーキング・テストワーキングのセットを3日程分用意し実践へ向けた研修を行う。 5、10/25, 26に開催される「からほりまちアート」の際、一般のお客さまを迎えて実践。 6、実践結果を受けた考察ミーティングを経てガイドのためのガイドブックに訂正を加え、完成版とする。 7、ガイド養成は続けてゆく。

団体名	NPO法人 天王寺21協議会
代表者名	熊谷 晃一
事業のテーマ・タイトル	【名所】 第7回 絵てがみコンクール「いま天王寺動物園が面白い！楽しい！」
主旨	第7回を迎えた「絵てがみコンクール」今年もモチーフを“いま 天王寺動物園がトレンディ”と、都心の中の憩いの場として動物達の生息環境を自然に近く配慮した園内、さまざまな動物の生態に間近に接することで教わる事も多く、わたくし達との共生を「絵てがみ」に託して・広く一般から公募、入選作を巡回展示方式で開催。
内容	今ペットを飼う人が増えていることもあり、家族としてのペットとの生活の場面を含めて、楽しさ・喜び・癒し・命の尊さ等、絵筆に託した作品を募集。入選作品を上町台地の拠点10箇所を目標に移動展示会を実施。上位8～16点を印刷、「天王寺動物園 発」の絵はがきとして採用者に贈呈。動物園の再認識と絵筆を持つ人の発表の場を提供。

団体名	空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト(からほり倶楽部)
代表者名	六波羅 雅一
事業のテーマ・タイトル	【安全・安心】 ロジモク減災～路地と長屋のまち「空堀」から減災をめざす第1章
主旨	路地と長屋のまちとして広く知られ、親しまれるようになった空堀商店街界隈。近世・近代の都心居住の風情を伝える街並みは、一方で地震や火災などに脆弱な一面も持ち合わせています。しかし、土地や建物の所有関係が錯綜し、空き長屋やワンルーム・マンションの増加などにより地域コミュニティの希薄化も進むなか、防災・減災に向けた取り組みは遅れがちでもあります。 近年、上町断層の存在が大きく取り上げられるなか、その直上に位置する空堀商店街界隈でも地域住民の防災・減災への関心が高まってきました。また、からほり倶楽部の活動も8年目を迎え、地域とのつながりも拡充してきました。この機に防災・減災への取り組みを立ち上げ、地域との信頼関係を一層増しつつ、じわりと着実に空堀商店街界隈での防災・減災への人的・面的な広がりを図っていくことになりました。 まずは3年の時間を掛けながら、防災・減災に取り組んでいくための人的ネットワークづくり、そして防災・減災に関する最新知識の吸収・共有を目指します。その初年を「第1章」として、地域に息長く関わっていくための協働者の掘り起こしと獲得、オープン開催の勉強会を通じた知識の共有を行うとともに、面的な取り組み可能性の探究も慎重に進めていきます。
内容	初年「第1章」では以下の取り組みを行います。 『楽しみ考える減災ゲーム・クロスロード大会』 中高生を対象にコミュニケーション・ゲームを通じて災害時の思考を学ぶ「減災ゲーム」を実施します。実際の災害時に救援者が対応に苦慮・苦悩した事例にもとづいて作られた「クロスロード」を行い、当事者感覚を養います。 家庭や地域とのつながりが薄れはじめる中高生を対象とすることで、地域への関心の持続を狙うほか、次年度以降に地域で減災ゲームを展開していく際の進行役やサポーターを確保します。 『見える分かる地域防災マップの作り方』 前項と同様に中高生を対象とした「地域防災マップ」づくりを行います。マップを実際に作りながらマップづくりにおける留意点や改善点を抽出するとともに、次年度以降にマイクロな地域ごとのマップづくりを展開していく際のマニュアルづくりにもつなげます。 『上町地史学講座・歴史と地理から浮き彫りにする地域の弱点』 上町台地の歴史と地理を専門家とともに振り返りながら、地域の災害史や地形、土地の改変歴などをつかんでいきます。専門家の講義を受けながら、防災・減災に有益な情報の吟味と地域への伝え方の工夫を行います。 2年目「第2章」では地元小学校とともに「地域防災マップ」づくりを進め、それにより保護者(30代の地域住民)の参画を図るほか、3年目に向けたモデル地域の選考を行います。 3年目「第3章」ではモデル地域を対象にした防災・減災への意識向上策の展開や、地域コミュニティのパワーアップなどを図っていきます。

団体名	三帰会
代表者名	秋田 光彦
事業のテーマ・タイトル	【安全・安心】 上町台地～防災寺子屋～歴史資源を活用した安全・安心のコミュニティーづくり
主旨	上町台地の西を走る上町断層への危機感は大きく、万に備えた防災・減災への対策の必要性は急務となっています。防災とは単なる危機管理ではなく、平生からの地域全体の意識啓発や住民どうしの関係性の育成を基盤とするものでなくてはなりません。上町台地の最大の特徴は都心の生活圏に配置された寺町です(天王寺区だけで約200カ寺)。それらは歴史や伝統を今日に伝えると同時に、本堂・庫裏や境内スペースなど豊かな公共空間を有しています。阪神淡路大震災の事例から見ても、万一の災害時において、その有用性は高く、同時に、日常より寺院が中心となって、防災の観点からまちを理解し、地域の人と人をつなぐことの意義は小さくありません。「安全・安心のまちづくり」をテーマに、お寺の今日的な役割を再考しながら、地域のつながり・コミュニケーションといった観点から、持続可能な上町台地の未来についてともに学びあう場づくりを目指します。
内容	防災・減災のまちづくりのための教育事業を中軸としており、大きく年度前半期(5月から10月)「寺院向けセミナー」と年度後半期(11月から翌年2月)「一般向けセミナー」で構成されています。寺院向けセミナーは、まず本事業の担い手たる寺院(僧侶)が、自身の公共的な役割について学ぶとともに、また市民協働やコミュニケーションデザインについて学習します。毎月の勉強会、ワークショップを開催、寺院自らの意識啓発とスキルアップを目指します。一般向けセミナーは、11月以降の年度後半期に開催し、寺院向けセミナーで習得した学びを基盤として、市民対象のワークショップやシンポジウムを開催します。専門のNGOと協力して「防災ワークショップ」や「防災まちあるき」などを開催、2009年1月15日には、事業の報告会を開催します。また、事業終了段階で、報告書も作成します。

団体名	あいね・谷町九丁目店(フェアトレード&エコロジー)
代表者名	原 いね子
事業のテーマ・タイトル	【食】 いのちはめぐる(持続可能な循環型社会を目指す)
主旨	「食べることは、生きることそのものである」との考えをもとに、大阪の都会である上町台地に住む私たちができることを考え実践することを主旨にしています。人と人のより良いつながりから、より良い環境や暮らしが生まれてくると考えています。そのために、自然農など無農薬無化学肥料で農業されている近隣農家と消費者、それら国産の食材で調理し食の提供を志す人と食べる人をつなぐ場の提供により、誰もが望んでいる安全な食の体験を提案します。持続可能な循環型社会(=全てのいのちはめぐる)のモデルゾーンとしての上町台地を目指しています。
内容	1. 「秋の収穫祭」と位置づけたマーケットを高津宮で開催。自然農、無農薬無化学肥料の農産物を生産している近隣農家との交流や販売。国産無農薬無化学肥料で栽培された農作物を使った野菜料理、マクロビオテック料理の提供を志す人たちへの場の提供。フェアトレードによるオーガニックコーヒーや紅茶のオーガニックカフェの開催。 2. クレオ大阪中央にて、料理講習と味噌づくりのワークショップを通じ、安全・安心な食について理解を深める。また味噌について言えば、味噌を買うことより味噌を作るほうが、大豆を畑で育てることの方が、物づくりに近づけば近づくほど生きる力が養われ心の安定につながるのではないかと感じます。少し前までよく家庭で作っていたものをとりあげることにより、日常の暮らしの中から自然と次の世代に伝わっていくかけがえない大切な文化の継承が行われるものと思います。 3. 応典院にて、映画「おいしいコーヒーの真実」上映会。コーヒーのフェアトレード生産現場を詳しく知る有限会社ネパリー・バザー副代表の丑久保完二氏をお迎えしての講演会開催。大阪教育大学附属高等学校の梶木尚美教諭によるワークショップ開催。これらから、身近な飲み物であるコーヒーから知るフードマイレージやグローバリズムの問題を知ると共に、私たちの未来へつながる行動のヒントを得る。

団体名	NPO(市民団体)OSAKAゆめネット
代表者名	下田 三七男
事業のテーマ・タイトル	【新規団体】 7月28日(なにわの日)は難波宮フェスタ
主旨	大阪府中央区法円坂にある難波史跡公園は、古い歴史をもつ古代都市大阪の象徴として貴重な遺産として存在する。しかし、まだ広く一般に知れ渡っていないとはいえない。この事業をとおして、地域や歴史ファンのつながりが深まり、難波宮の知識が深まることが期待され、他団体や専門家にも声をかけ参加してもらい、新しい枠組みの仲間作りと交流に寄与する。また、参加型とすることで、大人も子どもも楽しく学び、ふれあうこととし、大人だけでなく次世代を担う子どもたちを育むことにより、地域社会全体へ大きく貢献する。
内容	7月28日を「なにわの日」と称し、 7/27に難波宮史跡公園で「前夜祭」を行う。 ①「もっと知りたい難波宮」をテーマに、歴史の説明やミニツアー。 ②「古代の仕事体験」コーナーでは、「縄文の織りでミサンガ」等手作りやクイズ形式で様々な体験。 ③「交流」コーナーでは、音楽演奏、人形劇等を行い、芸術・文化に触れる。 7/28(月) ①講演会「難波宮と古代の難波」 場所 大阪歴史博物館 講堂 内容 10時 難波遷都に伴う都市建造とその後(講師:寺井 誠) 11時 「大化の改新」と難波宮(講師:中尾 芳治) ②難波宮の時代衣装着付けと箏体験 午後1時から4時 場所 大阪歴史博物館 1階エントランスホール

団体名	空堀子どもまちづくりの会
代表者名	森本 純一
事業のテーマ・タイトル	【新規団体】 空堀地区における子どもまちづくりの推進
主旨	空堀地区では、昔ながらの大阪の住まいを残した古い長屋や路地が数多く存在している。しかし、それらの土地が大規模なマンション建設や駐車場に変化することにより、その風景も変わりつつある。現在、空堀地区では活発にまちづくり活動が行われているが、実際に住民の意見が見えてこない現状がある。 私たちは、地元住民の意見を尊重し、地元の将来像の検討を促す機会をつくる必要があるのではないだろうかと考えている。そこで、地域の将来を担う子供たち地域の魅力や課題を考えてもらい、問題意識を地域住民全体に波及させることをねらいとする。 そして、子供をはじめとする地域住民が自らの手で将来も住み続けることができるようなまちをつくっていくことを目的とする。
内容	自分の住んでいるまちの未来像を描くことを最終目標にして、未来地図模型の制作を行う。制作にあたっては、地域の子供たちを中心に大人を含めたワークショップを開催する。 ワークショップの内容としては、①まち歩きを行い現在の地域の状況を把握する、②まち歩きを行った結果を検討し現在の地図を作成する。③点の視点から、既存の長屋模型を製作できるキットを用意し、各自が思い描く将来の長屋を製作してもらう。④完成した将来の長屋模型を各自が持ち寄り、②でつくった地図上に置き、面の視点から空堀地区の将来を思い描く全体模型を作成する。①、②を第1回、③を第2回、④を第3回とし、全3回のプログラムとする。完成した未来地図模型を地域の長屋や公民館などで展示を行う。 ワークショップの会場としては、地域の人が分かりやすいような場所を選定して行う。

団体名	北大江地区まちづくり実行委員会
代表者名	八木 治助
事業のテーマ・タイトル	【一般】 北大江たそがれコンサートWeek
主旨	北大江地区まちづくり実行委員会は、平成10年に発足したまちづくり団体で、「住み、働き、学び、遊ぶ、全てが快適な都心づくり」を目指し、住民と企業や官公署、学校等の事業所、従業者等が分け隔てなく協力しあって活動をしている。 (http://kitaooe.cocolog-nifty.com/blog/) 平成18年度に本事業助成で立ち上げた公園コンサートを、昨年度は島町沿道にも展開して週間のリレーライブとし、まちの雰囲気を楽しむイベントに育ちつつある。さらに、まちの魅力を広くアピールする行事としての定着を図るため、開催場所を面的に展開し、休日を含む期間に拡大して開催する。 中之島線の開業による世間の注目を上町台地の魅力伝達に活用する。
内容	・秋の週間イベントとしてのリレーライブの開催 一昨年に始めた公園コンサートをさらに発展させ、呼びかけ範囲や音楽のジャンルを広げ、イベント期間のオープニングやフィナーレの開催。 島町沿道などの事業所の協力により昨年開催したリレーライブを周辺にも広げ、秋の行事としての定着を図る。 イベントの自立に向けて実行委員会を立ち上げ、総合的なプログラムの運営をはじめ、期間のまちなみ、個性グッズ、ライブアフターの企画等の開発を推進する。 ・中之島線開業に合わせたまちのプロモーション 開業日を含む週間イベントとしてPRし、広域からの来訪者にまちの魅力をアピールする。 新線沿線のプロジェクトなどに連携するイベントの開催を働きかけ、当地区にとどまらない都心の魅力をアピールする。

団体名	NPO法人大阪ワッソ文化交流協会
代表者名	井植 敏
事業のテーマ・タイトル	【一般】 四天王寺ワッソアカデミー
主旨	上町台地が古代国際交流の中心で意義深い地であることを、古代東アジアと大阪との交流を再現することで現代に相応しい交流の促進を目指す「四天王寺ワッソ」への参加や観覧を通じて伝承する。
内容	・四天王寺ワッソ参加者(楽隊、舞、巡行)を募集 (募集方法: 高等学校を中心に専門学校等を含め、166校にポスター・チラシ配布。一般には公共機関でのポスター掲示、及びホームページにて) ・四天王寺ワッソパレード演奏の稽古に際して、古代史(なにわの跡)に関するガイダンスを行い、上町台地の歴史的意義をレクチャーし、3～5回練習を実施する。 ・四天王寺ワッソの開催会場で、観覧者(3万人)に対して、上町台地の歴史的意義を広報する。(チラシ、プログラム内のアナウンス)

団体名	日本学生支援機構大阪日本語教育センター
代表者名	唐澤 清司
事業のテーマ・タイトル	【一般】 留学生が見た上町台地
主旨	留学生に作品を募集することにより留学生が上町台地に関心を持ち、愛着をもってもらいきっかけとする。また留学生の視点からの上町台地を私達が知ることに、新たな発見や気づきをする。
内容	上町台地にはたくさんのお名所、旧跡があります。また日本人では気がつかないふとしたものや光景が留学生の目にとまるかもしれません。 そんな視点から「留学生が見た上町台地」というテーマで留学生に自作の作品(写真、絵画、イラストなど)を募集します。それを一斉に展示し、一般の方にご覧頂きます。